

若手研究者コラムリレー

山田 亜沙妃 (やまだ あさひ)



プロフィール

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員
スポーツ局 競技運営部(カヌースラローム) テクニカルオペレーションマネージャー

千葉県生まれ

2007年 東京女子体育大学 体育学部体育学科 学部卒業

2014年 順天堂大学大学院 スポーツ健康科学研究科 博士前期課程(修了)

2019年 順天堂大学大学院 スポーツ健康科学研究科 博士後期課程(満期退学)

2014年からJSC 国立スポーツ科学センタースポーツ科学部を経て、2018年から現職

専門競技 カヌースラローム(日本カヌー連盟の理事もしています)

E-mail: asahi.yamada0120@gmail.com



左端の黒い服が筆者(ゼミのお祝いの会)

わたしの研究

国際競技力向上施策の成功要因とは!?

私が学部時代から持ち続けている興味関心は、国際競技力向上施策です。そのため、今までに選手育成システム、一流選手のキャリア形成、一流指導者のキャリア形成等に関する調査研究に取り組んできました。その中でもキャリア形成過程に着目した調査研究を進めてきた期間が最も長いのですが、キャリア移行は予測可能な事象であり、次のキャリアを見据えて準備することが重要であると考えられています。しかしながら実際には10年、20年先のことを見据えて、キャリア移行をしている人は少ないのが現状ではないでしょうか。

国際競技力向上施策の成功要因のひとつとして、指導者の管理と養成が挙げられ、主に指導者の質の確保と雇用の拡充が重要であると考えられています。現在、日本人の一流指導者がどのようなキャリア形成過程を経て、現在のキャリアを得たのかに着目し研究を行っています。日本人一流指導者は、一流選手として日本代表などを経験し、引退と同時に年代別日本代表コーチまたは所属先のコーチとしての指導者キャリアをスタートしている方が多くを占めています。一方で、古くから「名選手、必ずしも名監督にあらず」との格言が存在するように、トップレベルの選手が指導者や監督としてチームの指揮をとる立場になった際に必ずしも良い成果を残すわけではないとも言われています。様々な競技種目における一流指導者のキャリア形成過程を明らかにすることで、日本の国際競技力向上の一助になることができれば本望です。

わたしの渾身の論文・書籍・記事

山田亜沙妃, 工藤康宏, & 野川春夫. (2018). 一流指導者におけるキャリア形成過程の仮説モデルの有効性についての実証研究: 新スポーツの社会化理論の構築に向けて. 笹川スポーツ研究助成研究成果報告書, 115-121.

必読

(なんでも帳)

私自身、カヌースラローム競技の日本代表としてジュニア期より競技一色の人生を送ってきました。引退を意識したときに大学院へ進学しスポーツ社会学を専攻したのですが、初めは研究の『け』の字もわからず無我夢中だったのを昨日のこのように覚えています。中でも学会発表は選手として出場したどんな国際大会よりも緊張しました。体育学会の学会大会では体育社会学領域で発表し、多くの先生からご指摘をいただいたのを覚えています。多くの経験を経ることで人間としても成長できるのだと実感しました。

現在は、東京五輪のカヌースラローム競技の競技運営に関する仕事に従事しています。2021年に延期になりましたが、アスリートが最高のパフォーマンスを発揮できるように日々準備を進めています。まさかの延期で私自身も驚いていますが、この経験を次のキャリアに繋げられるように日々精進していきます。



2009年日本代表時代(中央が筆者)



東京2020大会 カヌースラローム競技会場(江戸川区)

○次回のコラムリレーは幾留沙智さん(鹿屋体育大学)を予定しています。

日本体育学会若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育学会若手の会が発足しました!

→メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPq5fy3kcB5q2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taikugakkaiwakate@gmail.com (担当: 木村)

